

# 安積良齋と明治維新

2020年4月11日 安藤優一郎

## 講座の趣旨

安積良齋が明治維新に果たした歴史的な役割を考えます。

### 1. 幕府・藩の教育制度

#### (1) 昌平坂学問所 (昌平黌)

寛政9年(1797)に儒者林家の私塾が収公されて幕府直轄の教育施設・昌平坂学問所となる／林大学頭(林述斎とその子孫)が取り仕切る／敷地の面積は約11600坪～講堂・寄宿舎・教官住宅、湯島聖堂など／原則として幕臣とその子弟が学ぶ／素読吟味(口頭試験)、学問吟味(筆記試験)を実施～幕府は登用の参考に

#### (2) 藩校

各藩の城下に藩校建設～儒学・武術・医学などを教授／藩士の子弟向けの義務教育／主君に忠誠を誓う優秀な家臣の育成／寛政期(1789～1801)以降、藩校の建設増加／寛政の改革で朱子学が正学となると儒学では朱子学の講義を採用する傾向

#### (3) 私塾

藩士が藩士向けに城下で開いた塾～町人・農民が学ぶ場合も／学問・武芸を教授／熊本藩士横井小楠の小楠堂

### 2. 江戸遊学という制度

#### (1) 藩士の国内留学

藩校で優秀な成績を収めた藩士には江戸遊学を許可／江戸で私塾を開く高名な学者の門を叩きスキルアップを目指す／昌平黌や私塾への通学を許可される／剣術や砲術の塾に通う場合も／箔を付けて帰国後に登用されるのを期待

#### (2) 人脈と知識を得る

江戸は全国から優秀な藩士が集まる場所／昌平黌や私塾で有為の幕臣や藩士に知己を得る～藩内には得られず／遊学以外でも藩の公用で江戸に滞在の場合も／名前が知られて幕臣に取り立てられる可能性も

### 3. 学問の融合

#### (1) 「陽朱陰王」佐藤一斎と私塾

安永元年(1772)に美濃岩村藩家老の家に生まれる／寛政5年(1793)に岩村藩主の三男松平乗衡が林大学頭家に養子に入り林述斎と名乗る／9年に新設されて述斎が取り仕切った昌平黌に入門～述斎を補佐／儒学者(朱子学者)のトップとして昌平黌で講義／陽明学に傾倒して私塾では陽明学を講義→陽朱陰王／弟子としては佐久間象山と山田方谷が双璧／自己啓発書『言志四録』は西郷隆盛の愛読書／安政6年(1859)没

#### (2) 安積良齋と見山楼

寛政3年(1791)生まれ／江戸に出府して佐藤一斎、林述斎に学ぶ／文化11年(1814)

に神田駿河台で私塾を開く／文政 10 年（1827）私塾見山楼を建てる／天保 2 年（1831）に『良斎文略』出版／天保 7 年（1836）に二本松藩儒、天保 14 年（1843）に藩校教授／嘉永元年（1848）に『洋外紀略』著す／嘉永 3 年（1850）に昌平坂学問所教授就任／嘉永 6 年（1853）のペリー来航ではアメリカの国書の翻訳に携わる／万延元年（1860）に没す

### （3）陽明学者山田方谷

文化 2 年（1805）に備中松山藩豪農の家に生まれる／武士身分となった後、江戸出府。天保 5 年（1834）、一斎に入門／朱子学から陽明学に転じる／陽明学は朱子学に比べると実践・行動を重視→知行合一（知識は行動を伴ってこそ完成）／帰国後、藩の教育を預かる立場となる→藩政改革を任せられる／改革の成果が喧伝されて門人が藩外から集まる

### （4）佐久間象山と五月塾

文化 8 年（1811）、松代藩士の子に生まれる／天保 4 年（1833）、江戸に出て一斎に入門／10 年（1839）、神田お玉が池で私塾象山書院を開く（儒学）／洋学・西洋兵学を学ぶ～江川英龍の西洋砲術塾に入門／嘉永 4 年（1851）、木挽町で砲術・兵学塾の五月塾を開く

### （5）古賀謹一郎と久敬塾

文化 13 年（1816）に幕府儒官（幕臣）の家に生まれる～昌平黌で教える／洋学に強い関心を持つ～国際事情に通じた開国派／洋学の研究教育機関設置を提言～蕃書調所初代頭取／ロシア使節の応接掛／私塾久敬塾に藩士も学ぶ

※朱子学者も儒学の他学派や洋学を学ぶ（洋学者も儒学を学ぶ）。私塾には藩の枠を越えた入門者が集まる～掛け持ちも。昌平黌教授の私塾は人気

## 4. 安積良斎の遺産

### （1）著作の刊行

『洋外紀略』～国際情勢に通じる人物であることが広まる／洋学者よりも儒学者の方が政治権力に近く国際情勢を知りやすい環境／江戸で塾を開き昌平黌教授だったことも幕府・藩の枠を越えて門人が集まった理由

### （2）弟子たちが得た人脈～明治維新の萌芽

幕臣から藩士までバラエティーに富む門人／清河八郎・岩崎弥太郎などの郷土クラスから前島密などの豪農出身まで／外様雄藩の薩摩・長州・土佐藩士も多い／江戸の良斎のもとに集うことで幕府・藩の枠を超えたネットワークが様々に形成されていく→近代化・維新に向けた政治・社会環境作りが進行／佐藤一斎の後継者としての顔～幕臣に取り立てられた立場も同じ。後輩とも言うべき古賀謹一郎にも影響を与えた？

## 講師紹介

歴史家。文学博士（早大）。JR 東日本大人の休日倶楽部などで講師を勤める。

### 主要著作

『大江戸の飯と酒と女』朝日新書、2019 年 10 月。

『明治維新 隠された真実』日本経済新聞出版社、2019 年 5 月。

『江戸の不動産』文春新書、2019 年 3 月。

『大名屋敷 「謎」 の生活』PHP 文庫、2019 年 2 月。

『30 の名城からよむ日本史』日経ビジネス人文庫、2018 年 12 月。